

## 人間福祉研究第 18 号発刊にあたって

木村 敦子

Atsuko Kimura

広島文教女子大学に人間福祉学科が開設されて 20 年が経ち、2020 年 4 月には第 21 期の新生を迎えることとなります。現場の指導者として卒業生と邂逅することも増え、本学が地域にしっかり根をおろしたのだと実感し、改めてその歴史に思いを馳せる機会が増えました。

今年度は 2019 年 10 月 14 日（月）に、本学において人間福祉学会を開催しました。保護観察所、社会福祉協議会、児童発達支援事業所に勤務する 3 名の卒業生に、現在の仕事の取り組みを中心に発表をしていただきました。卒業後約 10 年を経た卒業生の皆さんは、今では現場の中核を担っておられます。ご自身で新しい取り組みを企画し実践しておられたり、社会資源を新たに開発し、支援の幅を広げておられたり、仕事で大切にしている信念等についてご報告いただいたりするなど、頼もしい姿を見せてくださいました。皆さんが前向きに仕事をしており、状況に応じて必要な支援や仕事を自分なりに考え、実践している様子が窺えました。3 名の発表後は、当日参加した在校生と卒業生、教員が、より具体的な話を聞きたいと思った分野に赴き、発表者に質問をする形の分科会を行いました。当日の様子は、本誌にて報告しておりますので、是非ご覧ください。今年度も、この人間福祉学会を通し、分野が違えども、本学での学びの成果である「援助観」が共通していることで、大切なつながりが継続していくことを改めて実感する機会となりました。

今年度、島根ブロック大会の開催はありませんでしたが、2020 年度の開催を予定してお

ります。島根県内で働いている卒業生もますます増えておりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

人間福祉学会は、学びの場であると共に、「文教だからこそ」の心やつながりを確認し、形にする場です。私たち自身も皆さんに負けないよう、これからもさらに多くの学びやつながりを提供していくことができたらと考えています。

ご存じの通り、本学は今年度より共学となり、「広島文教大学」と改名しました。今年度は、68 名の新生を迎えましたが、そのうち 14 名が男子学生です。福祉業界の人材不足が続く中、定員を超える新生を迎えることができ、身の引き締まる思いです。

社会福祉士・精神保健福祉士の養成カリキュラムについて、2021 年度からの改正が予定されています。地域共生社会の実現に向け、複合化・複雑化した課題を受け止める多様な機関の協働による体制作り、社会福祉士の役割が期待される中での改正です。実践力のさらなる向上に資するため、実習時間がこれまでの 180 時間から 60 時間増え、240 時間となることが決まっています。おそらく卒業生に実習指導をお願いする機会が増えるかと存じます。今後も、本学卒業生として、福祉業界の維持・発展に向けてお力添え下さい。

共学化に伴い新校舎も建設されました。ぜひ一度直接本学を訪れ、在学生に向けて多くの学びを授けていただく機会を持っていただければ幸いです。皆様におかれましては、今後ともご支援賜りますようよろしくお願いいたします。